

磯崎氏続投首相が表明

参院特別委 与党からも疑問の声

安倍晋三首相は4日の参院特別委員会で、安全保障関連法案について「法的安定性は関係ない」と述べた磯崎陽輔首相補佐官を続投させる考えを示した。だが、野党は引き続き磯崎氏の辞任を求め、首相の任命責任を迫及する構えだ。与党内からも、磯崎氏の続投に疑問の声が出ている。

「今の政権は緩んでいると同時にある意味本音が出たと思う」と指摘した。野党は再度、磯崎氏の参考人招致を求めている。

自民党内でも磯崎氏への批判が表面化した。4日の党役員連絡会で、山東派の山東昭子会長は磯崎氏について「今後、乗り切れるの

か。心からおわびをしなければならぬ時に紙を読んだ、あれでは伝わらない」と疑問を呈した。

参院議員の一人は「しばらく尾を引く。早く辞めてくれればいいのだが」と述べ、磯崎氏の自発的な辞任に期待する声まで出ている。

ミサイルも「弾薬」

「提供は想定せず」

防衛相

首相は民主党の小川勝也氏の質問に対し、「磯崎氏は自らの発言を取り消した。法的安定性の重要性は我々も説明している通り極めて重要で、磯崎氏も十分に認識している」と述べ、辞任は必要ないとの考えを示した。

一方、民主党の枝野幸男幹事長は4日の記者会見で「到底納得できない。磯崎氏をかばう首相も同じ考え方と受け止めざるをえない」と批判。維新の党の松野頼久代表も党執行役員会

安全保障関連法案を審議する4日の参院特別委員会で、中谷元・防衛相は、他国軍への後方支援で提供可能な「弾薬」の定義について、ミサイルも含まれるとの考えを示した。中谷氏は、実際には他国軍へのミサイル提供は想定していないと述べたが、殺傷能力の高いミサイルの提供を法律上認めることに野党から批判が出ている。

他国軍への後方支援について定めた「重要影響事態法案」と「国際平和支援法案」では、自衛隊による他国軍への後方支援として武器の提供はできないが、弾薬の提供はできるとしている。社民党の福島瑞穂氏が「ミサイルは弾薬か」と質問したのに対し、中谷氏は「ミサイルは提供の対象として想定していない。あえて当てはめれば弾薬に整理でき

る」と答えた。中谷氏は3日、弾薬の定義について「弾薬は一般的に武器とともに用いられる消耗品」として、手榴弾は他国軍に提供可能と述べた。(三輪あや子)

8/5 朝日